



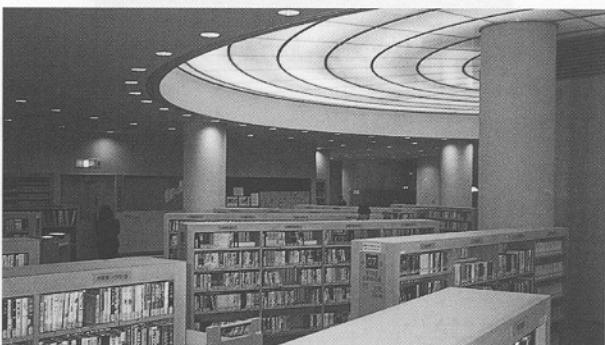
小説読物室のご案内

1階エントランスを入ってすぐ正面にあるカウンターが小説読物室のカウンターです。「旅行のガイドブックはどこですか」「法律の本は」「喫茶室は」と色々たずねられます。案内板だけではどうしてもわかりにくい面がありますので、どうぞ気軽におたずね下さい。

また、カウンターには各フロアの詳しい案内図も用意していますのでご活用下さい。

このカウンターの奥、低い書架が放射状に配架された半円形の室が小説読物室です。日本の小説・エッセイ・ルポルタージュ、英米の小説(翻訳・原書)、文庫、新書、大活字本、近畿地方と三重県の住宅地図、全国の電話帳を置いています。

小説・エッセイ類は著者名で探されることが多いので、著者名順に並べています。



ただし、書架に出ている本は当館が持っている本のごく一部です。著者によってはほとんど書庫に入っていたり、人気があって貸出されてたりして、目の前の書架には1冊もない、ということもよくあります。カウンターでおたずねになるか、利用者用端末でさがしてみてください。書庫にあれば職員がお出ししますし、貸出中であれば予約することもできます。

利用者用端末をもっとお使いください。特に書名や著者名がわかっているときは、簡単にさがすことができます。

「機械に弱いので…」と尻込みなさっていた方も画面タッチ式の端末を一度使われると意外に簡単なことがわかって、次からどんどん検索をして書庫の本を請求されたり、予約されたりしています。

新書や文庫のなかには分類によって別々の室にわかかれているもの（「新潮文庫」「ちくま文庫」「講談社学芸文庫」等）と分類にかかわらず、すべて小説読物室に在籍するものの（「岩波新書」「岩波文庫」「ちくま新書」「カラーブック」等）がある。

「クス」等)があり、ご注意ください。『日本経済図説第2版 宮崎勇著』という書名だけを見て、3階を案内しますと、実は「岩波新書」の1冊で小説読物室にあったということになります。

こども資料室との境の壁ぎわにはヤングアダルトコーナーがあり、人気のある「集英社コバルト文庫」や「講談社×文庫」、「角川スニーカー文庫」があって、いつも小・中・高生や若い女性でにぎわっています。



(大活字本コーナー)

大活字本は利用者用端末横のコーナーにあり、日本の小説を中心に約800冊開架しています。よく利用されており、新しい出版社も参入してきていますので、今後充実していくたいと思っています。

展示コーナー奥にはブラウジングコーナーがあります。ここには週刊誌や情報誌、ビジュアルな雑誌を中心に約70種の雑誌と、新聞9紙を備えて、くつろげる空間となっています。開館直後から閉館まで、大勢の方がゆったりと過ごされています。机を丸く囲んでいた椅子が、いつのまにかほとんど窓に向かって並んでいたりします。

以上ご案内してきましたように、小説読物室は小学生からご年配の方まで、本当に本を読む楽しみを味わえる室ですのでおおいにご利用下さい。



(ブラウジングコーナー)